

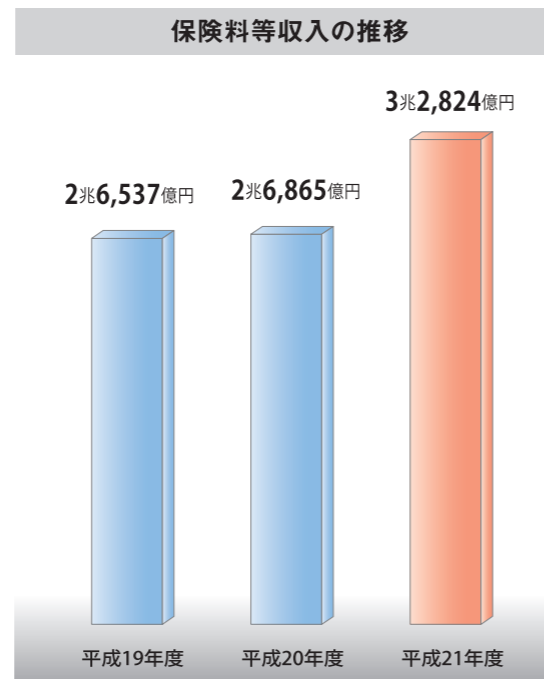
保険料等収入

3兆2,824億円

みなさまにご支持いただき
おかげさまで3年連続の
増収となりました。

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。

平成21年度の保険料等収入は3兆2,824億円（前年度比22.2%増）で、3年連続の増収となりました。これからもいっそうお客さまにご満足いただける取組みに努め、安定した成長をめざします。

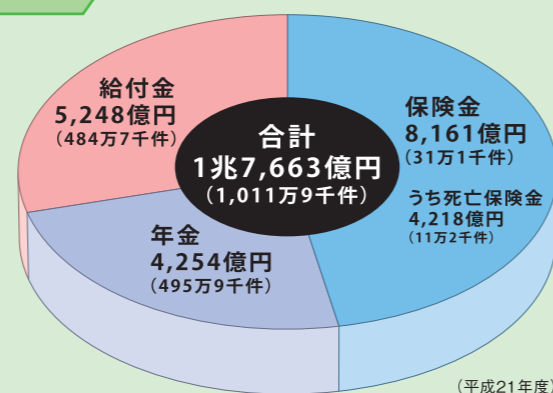


お役に立った保険金・年金・給付金

1兆7,663億円

平成21年度にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は1兆7,663億円でした（1日あたりのお支払いは約48億円）。これからも確実・迅速なお支払いに努め、お客さまに確かな安心をお届けします。

*給付金には、入院給付金・手術給付金のほか、ハッピー-L.A.ボーナスやお祝金なども含んでいます。



当社では、お支払い業務における重層的なチェック体制やお客さまへの充実したご説明の実施等、お支払いもれやご請求案内もれのない支払管理態勢を構築しています。また、「安心サービス活動制度」を通じて、保険金・給付金などのご請求がないかを確認する等、確かなお支払いに取り組んでいます。詳細については当社ホームページをご覧ください。

明治安田生命保険相互会社ホームページ <http://www.meijiyasuda.co.jp/>

基礎利益

2,914億円

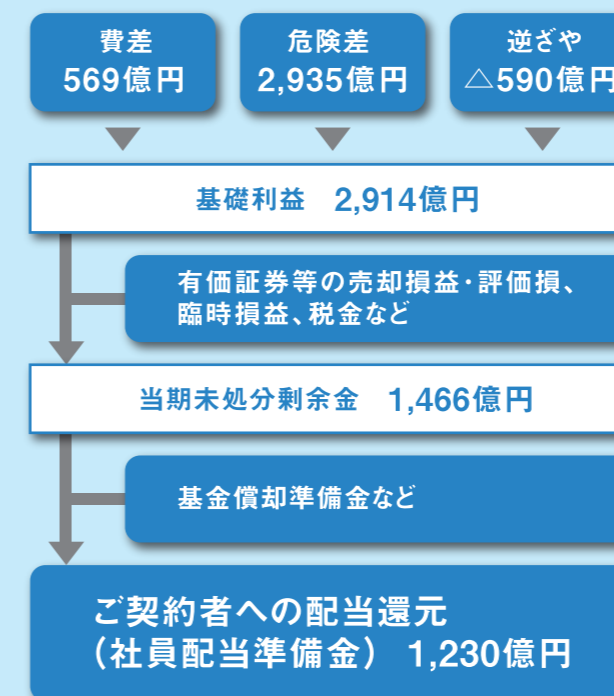
厳しい経営環境のなか
基礎利益の確保に努めました。

基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。平成21年度は厳しい経営環境のなか、前年度に比べ378億円の減益となりましたが、2,914億円の基礎利益を確保しています。

三利源とご契約者への配当還元までの流れ

基礎利益は、その内訳として「費差」「危険差」「逆ざや」から構成されています。基礎利益から、有価証券等の売却損益・評価損や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した当期未処分剰余金は1,466億円となりました。平成22年7月の総代会決議を経て、平成21年度決算に基づく当期未処分剰余金1,466億円のうち、1,230億円*を社員配当準備金として繰り入れます。

*法定の剰余金処分対象額に占める割合は94.85%です。



基礎利益の内訳

(単位:億円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
基礎利益	4,158	3,293	2,914
費差	1,044	719	569
危険差	3,681	3,262	2,935
逆ざや	△567	△688	△590

費差

保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額

危険差

保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額

逆ざや

保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額